

広島で漆について学ぶ 代表取締役 澤元教哲

寒の明けの二月六日、昨年からはまった静岡浅間神社様の楼門改修工事の漆塗りをお願いする、広島県広島市の有限会社島津漆彩色工房を訪ねてきました。浜松を七時一〇分の新幹線に「こだま」に乗り、途中名古屋で「のぞみ」に乗り換えれば、一〇時過ぎには広島駅に着いてしまします。瀬戸内海に面して風光明媚で温暖な気候の広島市ですが、私が訪れた日はこの冬一番の寒波が日本列島を襲い前日降った雪が積もっていてとても寒い日でした。

島津彩色漆工房さんは創業三〇年で、これまで主に西日本や九州の国宝・重要文化財を中心に沢山の施工実績があります。そして国宝の厳島神社の漆塗り工事も常時行っております。今回、静岡県は初めてということ、静岡浅間神社様の楼門改修工事には、身が引き締まる思いだということ、

到着後さっそく工房へおじゃま

ました。国宝・重要文化財の漆の塗り直しの工程は三三工程もあり、工程の見本を見ながら説明をききました。今回の楼門改修工事には漆塗りや極彩色・飾金具工事の部分が多く占めているため、私共も元請としてしっかり内容を把握して工事を監理していかねければなりません。そして工房では数名の方が建具などの保存修理作業をしており、女性の方が多いのが印象的でした。そして作業も素手でやっており、手先が黒くなるのにもかわらずに真剣に作業をしていました。



日本産漆と中国産漆の違いと見分け方の説明を受けました。

文化財の仕上の漆は日本産百%のものを使用し、下地の漆は中国産七〇%、日本産三〇%を使用するように決められています。日本産の漆は塗膜が堅く密着度が高い、そして表情が繊細で美しいという特長があります。価格も中国産と比べものにならないくらいの違いがあります。品質的には日本産の漆が優れています。生産量が少なく中国産に頼らざるをえないのが実情です。静岡浅間神社の楼門改修工事には約三〇〇kgの国産の漆を使用します。

現在の日本の漆の主な産地は岩手県二戸市浄法寺町で、ここで約七割を生産しています。そして今年の一月二六日の付の静岡新聞に静岡市が漆の木を植林するための調査費を平成三〇年度の予算に計上する方針と掲載されていました。静岡市の中山間地の「オクシズ」に漆の木を植林し、久能山東照宮や静岡浅間神社などの歴史的建造物を抱える市として、漆の地産地消を目指していきたいということです。何十年後かの改修工事には静岡県産の漆で保存修理することができたら素晴らしいです。

本堂の地鎮式

蔵福寺様（臨済宗建長寺派）は神奈川県伊勢原市にあり、以前手掛けた伊豆の国の宝積寺のご住職から弊社を紹介されたということでした。昨年七月には請負契約を済ませ、今年の二月から工事に入っています。

当日は寒波が日本列島を襲い、ときおり雪がちらつくなか地鎮式と起工式が滞りなく行われました。現在基礎工事が進行中で、四月の中旬くらいから建て方が行われます。



寒い中にもかかわらず、建設委員の皆様も参加していただきました。

護摩堂の上棟式



7月の完成を目指し、安全第一で工事を進めています。

浜松市西区篠原町の保泉寺様（臨済宗妙心寺派）では護摩堂の上棟式が、一月二八日に行われました。今年の冬は例年になく寒い日が多く建て方の作業も大変でしたが、大工衆は大きなかけ声と大きなカケヤを振り寒さを吹き飛ばしていました。

保泉寺様の護摩堂を担当する棟梁は若手の中で成長株の武田大将で、九州の久留米市出身で二五歳になります。宮大工として一人前になり、地元久留米に帰って独立したいという希望をもって五年前に入

社しました。入社後は兄弟子について本堂などの現場を経験していますが、今回寺社仏閣としては本格的な建物の棟梁を任せました。昨年の暮れから現寸描き・墨付け・加工と毎日緊張していたので、振れ隅木の野隅木もしっかりきれいに納まりほつとしていました。今後は本堂や書院・山門などの建物を経験し一人前の宮大工になるでしょう。このように若い職人が成長していくことで、次世代に日本古来の美しい建築物を残すことができ、技術の継承ができるのだと思います。



飛龍の彫刻

→玉蔵寺様の本堂の臺股で丁寧にはずしてきました。これから保泉寺様の護摩堂の向拝に取付られ、参拝者を見守ってくれることでしょうか。

「葬送墓制の変化」

日本テンプルヴァン(株)井上拓郎

「葬送儀礼の変化」

葬送墓制という言葉は、宗教界ではよく聞く言葉だと思えますが、葬送と墓制が合わさって出来た言葉と思われまます。葬送とは、一般的に葬儀の事を意味します。

昨今、生活様式の変化や人々の価値観の変化によって、葬送儀礼も変化してきました。例えば、都市部などでマンションに居住している場合、自宅で葬儀を執りこなう人は、殆どいません。まず棺を部屋に入れ辛いですし、ご近所付き合いが希薄な場合、知られたくないという方も少なからずおります。ちなみに高層階のあるマンションでは、エレベーターの奥の方が開いて棺を乗せれるようになっていそうです。

また自宅で亡くなる人と、病院で亡くなる人の割合をみても、昔は自宅で亡くなる方が多かったのですが、一九七〇年代後半から逆転し、二〇〇五年頃には八〇%の方が病院で亡くなられております。病院で亡くなった後、ご遺体が向かう先は、自宅か寺院か葬祭場、もしくは火葬場です。火葬場では一時的に遺体を火葬するまで預かってくれますが、亡くなってから火葬場に直接向かい、通夜や告別式をおこなわず火

葬する事を直葬と言います。NHKが二〇一三年におこなった調査によると、五件に一件が直葬だそうで、実に二〇%という事になります。直葬だから僧侶を呼ばないという訳では無いのですが(火葬の前に読経を頼まれる方もいるので)、そもそも無宗教者や菩提寺の無い方が大半です。また直葬を選択される方の一番の理由としては、経済的(金銭的)な事情の方が多くありますが、家族葬が増えてきている理由も同様なのだと思います。無論、家族でゆっくりお別れをしたいという思いの方もいると思いますが、お金をかけず最低限の葬儀で構わないという価値観なのだと思います。

価値観の変化だからと割り切ってしまうのではなく、金額ありきの葬送儀礼では後悔しか残りません。直葬の件数が増えてきている事と、国民生活センターへ寄せられる葬儀に関する苦情の件数が増えてきている事と、全く関連が無いとは言いきれません。日頃からそういった方々へ寄り添える僧侶が必要なのだと思います。

「墓制度の変化」

葬送儀礼の変化に伴い、墓制度も同様必要とされる方のニーズが変ってきました。

寺院墓地の場合、檀家であり、墓所を

継承する者がいれば、代々受け継がれるのが当たり前でありましたが、少子高齢化の影響や、子供たちへ迷惑をかけたくないと言った思いから、昔ながらのお墓を求めると方の割合が減ってきました。また実家などが地方にあり、お墓をお守る方々が都市部に生活基盤を築いている場合には、お墓を整理(墓じまい)したり、墓所を移転したりする方も増えてきました。厚生労働省が発表した改葬件数は、実に九七、三二七件(平成二八年度)あり、その中で無縁墳墓等の改葬は、一、九四八件でした。約九五、〇〇〇件の墓所が、墓じまいもしくは、墓所の移転をされたということになります。文化庁が公表する宗教年鑑にある全国の宗教法人(寺院)の数は、七五、七四四ヶ寺(平成二八年度)ですので、皆さんのお寺でも、一件以上の改葬があった事になります。最近では、納骨堂や永代供養墓、樹木葬、散骨はご遺族の考え方により多様化しております。ご遺族の経済的(金銭的)理由で選択されるのは、時代の流れもあると思います。ご先祖様から今日まで、ご自身のルーツを遡って知ることの大切さを忘れないで欲しいと切に願います。

寒さに震えた冬がおわり季節は春、入学式、入社式などの行事があり忙しい季節ですが、春野菜を食べて体をリセットしましょう。

冬の寒い時は他の季節に比べたら運動量や汗をかく頻度も落ちていきます。その為老廃物が貯まったり、新陳代謝なども落ちやすくなってしまっています。そんな状態で春先を迎えると、

- ・ たくさん寝ても眠い
- ・ 肌荒れが酷くなる
- ・ アレルギー（花粉症など）が酷くなる

といった症状が出やすくなります。そんな冬の間の体質をリセットしてくれるのが春野菜なのです。また春野菜の特徴として、特有の苦みや香りがあります。その苦みや香りの原因は植物性アルカロイドという成分が多く含まれているからです。この植物性アルカロイドは、老廃物を排出してくれる役割があります。

また春キャベツ、菜の花のようなアブラナ科の植物に含まれるグルコシノレートという成分が重要です。

このグルコシノレートは

- ・ 更年期症状

- ・ アンチエイジング効果
- ・ 免疫力のアップ

などの身体の機能向上に役立ちます。それでは春野菜の代表的なものを調べてみましょう。

☆菜の花

旬は二月から三月で、栄養価の高い野菜です。ビタミンCはほうれん草の倍以上、βカロチンにいたってはピーマンの五倍以上の栄養があるといわれています。春野菜の王者と言っても過言ではないですね。

☆春キャベツ

ビタミンKとビタミンCが多く含まれていると言われています。ビタミンKが不足すると鼻血・月経過多・血尿・血液凝固の遅延などという症状が現れるようです。普通のキャベツと比べると水分が多くて、葉が柔らかいのが特長でサラダで食べるのがおすすめです。

☆ふき

ふきは平安時代から野菜として栽培されていると言われますが、現在各地で栽培されている物の多くは愛知早生という品種です。また全国の山野や川

の土手などでも多く自生しています。栄養成分で見るとこれといって多く含まれているものはありませんが、食物繊維やミネラルが含まれています。またふきの葉や茎には生活習慣病の予防に効果が言われています。

☆たけのこ

旬は四月から五月で、食べてもわかるとおり食物繊維を豊富に含んでいるため便秘や大腸がんの予防に効果があります。たけのこは掘り出した後、時間が経つにつれアクが強くなるため、できるだけ早くアク抜きをしましょう。アクが強いので食べ過ぎると吹き出物やアレルギーにいた症状を起こすので注意が必要です。

旬の野菜は栄養価も高くおいしいだけでなく、その時に身体が必要としているものを含んでいます。心にも体にも嬉しくて、味もよくおまけに安価に手に入る春野菜を食べて春を満喫したいですね。

